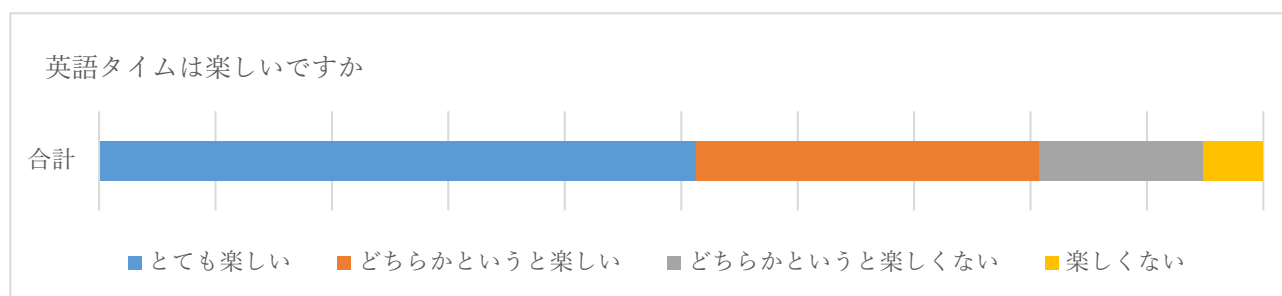


令和7年度特別の教育課程の実施状況等について

1. 自己評価結果

令和7年度の児童（1～4年生）を対象にアンケート調査を行ったところ、「英語タイムは楽しいですか」という質問に対して、「とても楽しい」「どちらかという楽しい」と回答した児童の割合は、昨年度と比較して12%減少しました。ビデオ視聴や反復唱和を通して英語表現に親しむことはできたものの、学習した表現を活用したり、友達と関わったりする場面が十分ではなかったことが一因と考えられます。今後は、活動内容や難易度、児童一人一人の参加状況を振り返るとともに、ペア活動やゲームなど、児童が主体的に英語を使える活動や達成感を味わえる場面を増やし、学習意欲の向上につなげていきます。

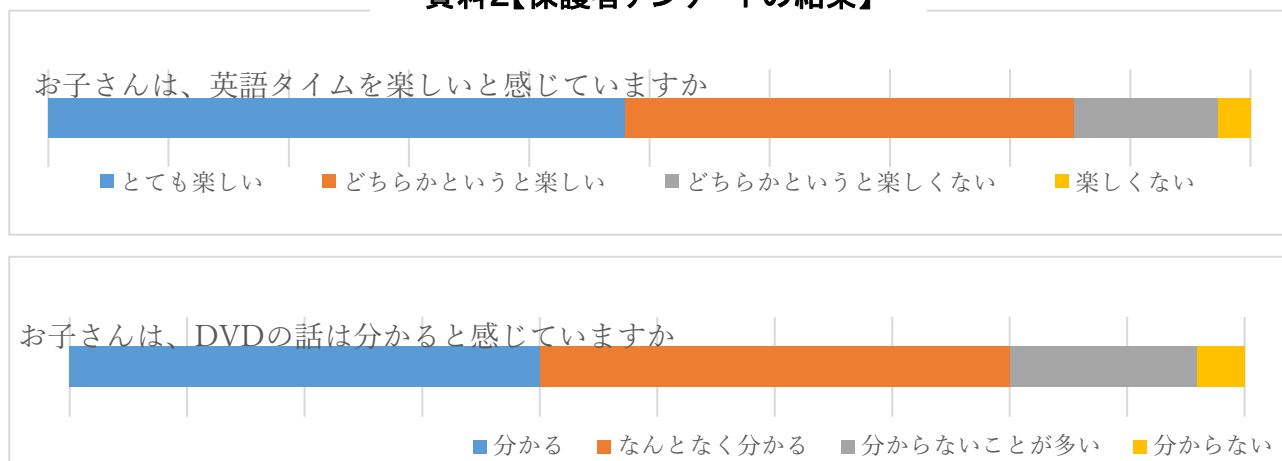
資料1【児童アンケートの結果】



2. 学校関係者評価結果

保護者アンケートでは、「お子様は英語タイムを楽しんでいると感じていますか」という質問に対して、「とても楽しい」「どちらかという楽しい」と回答した保護者は全体の約85%でした。しかし、昨年度と比較すると9%減少しており、児童の英語活動に対する満足感や意欲が低下している様子が保護者にも伝わっていることがうかがえます。一方、「お子様は、DVDの話は分かると感じていますか」という質問に対して、「分かる」「なんとなく分かる」と回答した保護者は約80%で、昨年度より3%増加しました。継続的なDVD視聴や反復唱和により、児童が英語の音声や表現に慣れ親しみ、内容を理解する力が育まれていることがうかがえます。

資料2【保護者アンケートの結果】



3. まとめ

多くの児童は、英語タイムを「とても楽しい」「どちらかというと楽しい」と感じており、前向きに取り組んでいます。また、保護者からも「家庭で英語の話題が出るようになった」「英語への苦手意識を減らしてほしい」「今後も継続してほしい」といった意見が寄せられ、英語に親しむ機会として期待されていることがうかがえます。

一方で、「楽しくない」と感じる児童が昨年度より増加していることや、活動中の学習態度について課題を指摘する声もありました。今後は、学校の英語活動や外国語科の授業との関連を図りながら、児童が学びのつながりや達成感を実感できる活動の充実に努めていきます。また、発達段階や個に応じた支援や声かけを丁寧に行い、英語への興味・関心を高めるとともに、誰もが楽しく学ぶことのできる英語タイムを目指していきます。